

令和4年度自主防災組織アンケート 概要

自主防災組織数	354	
回答数	287 (70組織)	

①防災訓練実施状況	組織数	分母
実施組織数	160	287

②防災訓練開催方法(複数回答あり)	組織数	分母
地区住民のみで実施	115	160
地区内の防災指導員を活用	23	160
市へ講師依頼	39	160
その他講師依頼	8	160
その他	16	160

③訓練内容(複数回答あり)	組織数	分母
初期消火訓練	39	160
避難訓練	48	160
救命救急訓練	16	160
炊き出し訓練	24	160
避難所運営訓練	29	160
安否確認訓練	101	160
防災講話	45	160
その他	31	160

④防災倉庫の点検	組織数	分母
実施組織数	246	287

⑤資機材購入補助希望	組織数	分母
希望組織数	126	287

⑥防災マップ	組織数	分母
作成済組織数	102	287

⑦研修会実施時期	組織数	分母
回答組織数	107	287
1-2月	9	104
3-4月	6	104
5-6月	34	104
7-8月	17	104
9-10月	25	104
11-12月	16	104

○令和4年度アンケート 自主防災組織の課題欄(抜粋)

1 コロナ関係

コロナ禍で大規模の集会が出来ない
コロナ禍で集団で実施の避難訓練等できかね安否確認のみとなっている
コロナで各種訓練ができなかった。
コロナ禍の中での訓練は再生出されるのか?
コロナ禍により、防災訓練が実施出来ない。

⇒対応・検討事項

・感染症を踏まえた防災活動については防災安全課および、各総合支所地域振興課へご相談ください。

2 訓練関係

自主防災組織の訓練時の参加人数が少なく、区総会時、草刈り等の作業時などの際に研修している。
年に2回避難訓練、防災訓練をやっているが、年々参加者の方々が少しづつ参加数が少なくなっています。
行政区民の多くが参加する避難訓練が実施できない。
マンネリ化により人が集まらない。
住民の防災意識の充実が必要、訓練時に参加人数が非常に少ない。訓練の効果が見られない。

地震と火災を中心に防災訓練を行っているが、昨年はコロナ感染拡大中であったり、高齢化など参加者が少なかったのが問題だ。
平時の訓練には住民は関心度が少ない。

参加者が少ない。

防災訓練(AED、炊き出し訓練)の他に、短時間でも学習会(訓練)を取り入れ、防災意識の裾野を広げられればと考えます。
訓練時の人数の集合率が悪い(参加者)・老人世帯が多く避難訓練がむずかしい
2月に大崎市で夜中に震度5強の大地震が発生した際に、毎年11月に行っている災害情報収集、訓練した通り出来なかつたことが反省です
防災訓練時には安全旗をほぼ全戸で掲げているが実際の災害時にはほとんど掲げていない。
安否確認の方法と訓練弱者、高齢者の避難訓練の方法と実施
コロナ等もあり、年寄りを集めないので高齢者向けの防災訓練方法の進め方
集合住宅(単身者)は入居者の入れ替わりが多く又国外の人も入居しており防災訓練での安否確認が出来ていない。
防災指導員や防災リーダーの育成(複数)を目指しているが、積極的に講習会参加者がみられない。

・研修等を企画しても人が集まらない。参加者は役員のみとなっている。

⇒対応・検討事項

・アンケート等を通じ、訓練内容を共有するとともに、自主防災組織の活動の在り方についても研修等を検討してまいります。
・地域での訓練内容については、打ち合わせ段階から防災士の方に入っていただくことも可能ですので、ご相談ください。

3 避難関係

避難所の運営
桜ノ目のクリーンセンターに避難しようと思っております。行政の方でクリーンセンターに橋渡し役になってもらいたいものです。
高齢者の避難をどのように速やかに行うか。
肢体不自由者や身体障害者が避難する場合の方法(誰が援助して避難所まで運ぶか)
避難所まで遠い
避難場所へ地区民全員の収容が可能なのか
高齢者などの異動について
ルート走行困難場所が多々(交通量)
懸念されるのが鳴瀬川等の決壊による広域水害であろうと思われる。決壊した方向に逃げることになる。
安否確認について夜間(22:00~5:00)の場合の体制が難しい。水害の場合、水深50cmを超えると巡回不可
勤めをしている方は、会社等に行かなければならず、高齢の方々の誘導ができない場合もある。
大雨により道路・水の越水により交通停滞が起きている。どうすればよいのか。
県道の両側が山であるため土砂災害に常に気を付けています。

⇒対応・検討事項

・いただいたご意見を参考に災害対応を実施してまいります。

4 ハード面整備

資材が揃わない。部落ではお金も無い。
資金がない→購入したい物が買えない
自主防災組織の活動において市からの助成金の支給等があれば教えて下さい。
防災備品のメンテナンス、資材の買い替え(古い設備は使用できなくなる)
大雨時の道路の冠水の為U型側溝の設置を望む

⇒対応・検討事項

例年、夏ごろにご案内しておりますがコミュニティ助成にて資機材の助成補助を行っておりますのでご確認ください。

5 防災無線関係

防災無線がよく聞き取れなかった。改善を検討していただきたい。

防災無線タワーがないので各戸に防災無線受信機を設置する計画であったが受信不能の地区が大半で設置されていない。

防災無線が聞き取りづらい意見が多い。樹木の影、無線が鳴ると犬もなき、内容が理解出来ないの意見があり、有料でも個別受信機の設置で地域内に設置の防災無線広報施設が1カ所であり、当地域の山が多く沢も多い地形事情上、無線内容が聞き取りづらい家も多いことにより防災無線があまりよく聞こえない。

⇒対応・検討事項

- ・防災無線が聞き取りづらいとのご意見を受け、市でも難聴世帯への戸別受信機設置や防災無線の内容をメール配信、電話確認できるサービスを提供してまいりましたが、既存サービスの周知を図りながら、防災無線の在り方や防災無線以外の新たな情報発信手段を含め検討してまいります。

6 組織体制関係

技術的に素人集団であり、いざ災害が発生した場合、防災組織として活躍が心配である。

自主防災組織の見直しについて(令和4年現在)

防災組織が一部非現行な点があるので見直しプロジェクトを立ち上げ、現在取組中。火災、地震、水害等を想定のマニュアル作り中。

前述の通り新しい組織体制を考慮中。地図が広く班編成しているが近くに他の行政区を区別がつかない所もありわかりにくい等。

自主防災組織の見直し(世帯数増加の為)

自主防災組織の役員、リーダー格の選出に苦慮している。

自主防災組織は作成しているものの、いざという場合に助ける人の数が少ない。働きに出ており、日中不在する人が少ないことが主な要因実際の災害が日中の場合はそれぞれの役割を担う人がいない

役員等なり手がなく、運営が困難です。

自主防災組織の役員、リーダー格の選出に苦慮している。

平日に地震が発生した場合に、日中にいる人は高齢者になっているので安否確認に時間が掛かっていて救出・救護に困っています。

空室が多く、協力者が年々少なくなっている事。

少ない人員でも防災組織の維持管理

災害発生時(地震等)の役員の集まりがいまいち。

人手不足

人員不足、理解不足

親和会(親交会)単位の自主防災組織の方が運営しやすいのではないか。行政区にひとつ」の制約にしばられている。

役員の固定化が課題です。参加を呼び掛けていますが、思い通りに進展していません。

勤め人が多く、日中等の対応が課題。また、安否確認についても近所同志という単位で行ない防災班長等迅速把握できるようと考えている高齢の独身世帯や障害のある方が増えてきて、万一の場合の救援体制に不安がある。

⇒対応・検討事項

- 幅広い世代に自主防災組織というものの周知・広報に努めてまいります。

7 地域連携関係

自主防災組織と消防団、民生委員との役割分担を明確にしていきたい。高齢者の安否確認など。

常日頃から地区の人達や民生委員さん達との地区の情報共有(独居老人等)(家族構成)

組織はあるが、区の役員と消防団員でのみ活動している。

空家、一人居住者が多い。高齢者が多くなり民生委員、消防の連携を密に。

⇒対応・検討事項

- 連携の橋渡しになれるよう努めてまいります。

8 組織の高齢化

認識不足、若い人達の無関心が多い。防災訓練のみならず何のイベントにも参加しない。

住民の関心がうすれるとともに役員のなり手不足

組織のリーダー(幹部)の高齢化若手は日中不在

住民の高齢化によって組織組織が作りづらい。

高齢化

高齢化と高齢者世帯が多くなって来ており訓練等難しくなってきている

日中高齢者のみの世帯がほとんどで災害時にどう対応していったら良いか不安である。

高齢者世帯が多く全ての行事等に参加する意欲がない。

福浦三地域の7割がアパートや借家で持家でも(高齢者)世帯が多く役員の成り手が無く非常に苦労しています。

高齢化により防災訓練などへの参加意欲が低下している。

役員の高齢化が進んでいる。コロナ禍でコミュニケーション取れず協力してくれる新しい人材見つからずの状況です。

高齢者が区民の半数以上である。避難行動への取り組み開始をどんな方法で周知徹底するか?

過疎化が進み各種取組についても内容周知の時点で多くの課題(連絡方法等)があります。

・高齢化が進み、防災訓練を実施することがケガをするリスクが高い。・各家の情報(人員構成、連絡先、健康状況等)は個人情報ではある:非常に高齢者しかいない集落に付き対応が心配である。

高齢者世帯の移動(特に日中時間)は連絡、連携のとりようがない!

もう少し若い人達の協力を願ってます。例:消防活動等

高齢化、一人老人等現実にきびしい環境

住民の高齢化により、災害が発生した場合の役割分担が機能するか心配である。

地域事情に合わせた訓練方法が必要あるがメンバーが不足(年齢的な問題)がある。

地区住民の高齢化

救助活動に展開が難しくなった。高齢化が進んで人助けができなくなった。

自主防災会組織図を策定しているが関係機関等への「つなぎ」しかできない(通報等)役員等日中仕事をしており高齢層の多い行政区です

高齢化が進み、防災訓練にも参加できない

役員の成り手がいない故に役員の高齢化

若い人が少ない

組織編制を作成しているが、年々高齢化が進み、訓練時に協力体制や人員配置に苦慮している。

一人暮らし等の高齢者の避難救助

少子高齢で運営が厳しくなっている

高齢者世帯が多く、大災害が起きたら本当に対応できるのか不安です。

防災班員の高齢化

高齢化班編成をして具体的に助け合う組織づくりをして手続きを明文化している

高齢の為、動きが取れない。

高齢化が進んでおり、避難するにあたり苦慮している。

高齢者が多い世帯になりつつ有り、自主防災づくり体制の強化について

高齢化になり若い人達の参加が少ない。

高齢者、独居世帯の増加と伴う、避難誘導と考えている。

若い年代の参加が少ない。

構成員の高齢化・構成員を新たに引き受けてくれる方がいない

少子高齢化に伴い、活動が厳しい状況にあるので岩出山地区自主防災連絡協議会にて人材不足の軽減を図りながら活動しております。

委員の高齢化

高齢化が進んでいる。役員のなり手がいない。

行政区の役員と自主防災の役員が兼務しており、高齢化が進んでいるので若返りを計りたいがうまくいかどうか心配している。

構成員の高年齢化、1人世帯が多くなっている

高齢化と自主防災組織への関心度の低下

参加率が低下しつつある。高齢化。

安全で無理のない活動を大前提として活動の内容を検討し、その上で後任の選出方法を工夫するのが喫緊の課題と思われます。

高齢化と後継者が難しい

1人世帯、高齢化世帯などが多くなり、伝達行動に制限が出て来ている。

高齢化、人口減少により細分化された役割分担の人員配置に苦戦している。

高齢化、人口減少、退職年齢が高くなるなど防災関連事業に参加しにくい状況が深刻化し、事業の実施困難の状況が進展している。

日中留守番役の高齢者のみ、又若年層の参加率が低く、組織活動をしても各町内会(親交会)代表者ののみの参加になっている。

高齢化に伴い地域の自治会は実際に機動力を発揮できない。同一人物が幾つもの役員をしており若者が地域を離れ、育成できない現状。

地区は高齢化社会の傾向にあるため、防災訓練を行うにも区民の協力体制が難しい。

高齢者が多く運営に苦心している。

若手がいないことが最大のネック

少ない若人は会社勤めで、ほぼ役員は高齢者の状態で有り、いざ大規模災害が発生しても二次災害が心配です。

世帯の高齢化

一人世帯や高齢者世帯が多くなり、避難訓練など全員参加が難しくなっている。

地区組織役員の高齢化・住民の防災意識が低く、浸透しない

自主防役員の大半が高齢者で30代～50代が少ない。

高齢化が進んでおり活動の理解を得ることが困難 全て区長まかせになっており1人では限界を感じている

・高齢化や一人世帯の増加など社会状況の変化を考慮し、広報やチラシ、webサイト等を通じ、各家庭や個人毎の防災意識の向上にも努めてまいります。

・自主防災組織への支援についても今後も引き続き行ってまいります。

9 防災意識

部落区民等の防災意識に対する考え方低い。

区民の意識低下及び参加不足(他人事に思っている)

結局は区長に頼りきりの組織になっている

防災意識が薄れている。

災害の少ない地域で関心が少なくなっている(意識)

自主防災に対し意識が低い点

防災に対する意識のマンネリ化

協力員のなり手不足・協力する、という仲間意識の低下

東日本大震災以降災害に対する自意意識が希薄になってきているように感じられる。

住民の参加人数が少ない。自主防災の必要性がよくわからない。

防災意識が低く、災害時に組織が機能するか不安

毎日頃の心構えが必要と思われます。一人一人がどのようにしたら関心度を高めていくにはどのようにしたらいいのかが課題です。

常に課題はあるが、防災への理解と意識高揚。

⇒対応・検討事項

- ・高齢化や一人世帯の増加など社会状況の変化を考慮し、広報やチラシ、webサイト等を通じ、各家庭や個人毎の防災意識の向上にも努めてまいります。
- ・自主防災組織への支援についても今後も引き続き行ってまいります。

10 その他

行政区全域にわたりハザードマップ上の想定最大浸水深が5.0m以上となっており、どのような対策を取れば良いのか何も思い浮かばない。

市役所から配布された対象者リストの複写厳禁により、緊急避難を要する場合、ネックになるのではと懸念しています。

現在、防災倉庫を西庁舎裏(西側)に置かせてもらっているが、解体時に移動をしなければならず、その移転場所に困っています。

防災倉庫を設けるために現在積立金をしている。

防災倉庫に「カビ」が発生し(今まで初めての事象)その解消に困っている。

被害状況報告書の提出が時間的に難しい(夜間は更に難しい)

コロナ、大雨の影響により土砂崩れ等の山の点検、消防と連携して調査する事になっていたがまだ実施していない。

近年、空家が何軒か出て来ている。見回り等しなくてはと思っている。

家族の安全が確保されたら門口に旗を立てるがまだできていない。

活動中のケガ等の保障問題

要配慮者等の区でのマップ作成時の記入配慮。

現状は、「田尻地域災害情報収集訓練実施要綱」に準じ活動中。

一人暮らしの高齢者対策(買物、病院、雪はきなど)

1人ぐらし、空家が多くなり親交会レベルでは難しくなって来ている。

⇒対応・検討事項

- ・ご意見いただいたものの中で対応可能なものから実施してまいります。